

支部設立20周年記念

と き ● 1998年10月25日(日)

ところ ● ホテル 金 万

(厚岸町港町100番地12)

(財)北海道難病連厚岸・浜中支部

創立20周年をむかえて

北海道難病連厚岸・浜中支部支部長

田宮 滋子

たった8名の患者が集って友の会を発足させて以来20年がすぎました。

現在の会員は丁度10倍の80名をこえています。こゝに至る20年間は、厚岸・浜中両町からの補助金をはじめ、物心両面の御支援に支えられ、又、町民皆様の御理解と御協力をいたゞいて歩みつゞけてまいりました。

発足して2年目には『今日1日太陽のもとで遊びませんか』のフレーズのもとに、管内の患者家族、スタッフ、ボランティア500名が集り、子野日公園→あやめが原→白浜海岸でさわやかな風に吹かれました。「7年目に海を見た」「10年目に砂にさわった」とよろこんだ患者の声が今も心に残ります。

以来「難病無料検診相談会」「シンポジウム」など、少しでも町民の方々にお役に立ちたいと頑張つてまいりました。

医療費の自己負担が増えたとき、高齢者の病院代が有料になる時など、その折々に皆様に署名をお願いし、北海道難病連の全道代表として道選出の国会議員への請願にも行ってまいりました。

原因も治療法も不明な難病の研究費として国からの予算が出ていて無料だった難病患者の医療費の1部負担が導入されました。くらしにくい世の中で、ハンディを持つ私たちには更に辛い現実ですが、20年間培ってきた会員同志の信頼と皆様の御支援のもとに、大きな節目に心新たに歩みつゞけることをお約束いたします。

ごあいさつ

厚岸町長

澤田 昭夫

財団法人北海道難病連厚岸・浜中支部が設立20周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

発足以来この20年間、レクリエーションや交流会などの行事をとおり、貴支部は患者やご家族のみなさんの大きなささえとなり、またそれら行事に参加された方々の絆が一層強くなったことと思います。

また、様々なテーマを取り上げた講演会などは、難病に対する社会の理解を深めるなど、地域における役割も非常に大きく、貴支部の活動に心より敬意を表します。

今日の医学はめざましく進歩したとはいえ、未だ原因が分からず治療法も確定していない病気で、多くの方々が悩み苦しんでいます。この現状を考えると、難病の調査研究が一層の成果を上げ、一日も早く原因が解明され、効果的な治療法が確立されることを強く期待します。

厚岸町といたしましても、補助金の交付、検診料の助成など微力ながらもご協力させていただいておりますが、今後さらに、だれもが健康で生きがいを持ち安心して生活できる町づくりを実践するためにも、保健・医療・福祉の総括的な体制を築いていく必要があると考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

最後に厚岸・浜中支部にはこれからも、患者やご家族の皆様の心の支えとなり、地域に根ざした活動を続けられますことをお願い申しあげるとともに、難病連厚岸・浜中支部のますますの発展を心より祈念申し上げます。

北海道難病連厚岸・浜中支部 結成20周年によせて

浜中町長

小 林 章

北海道難病連厚岸・浜中支部結成20周年、心からお慶びお祝い申し上げます。

20年間の会員の皆様のご苦勞、会を支えてきた役員の皆様のご努力に深く感謝を申し上げます。

難病と一口に言っても多くの病気があり、現代の高度に発達した医学でも治すことのできない病であり、症状も様々で、患者の皆様のご苦痛、ご家族の方々の苦勞、精神的、肉体的、経済的な負担は計り知れないものがあると伺っています。

一人ひとりでは弱い立場の人間ですが、同じ悩み、苦しみを持つ人々があい集い、お互いに励ましあって生きてきた、病気の解明を促進し、少しでも生活しやすいより良い環境を作ってきた、難病連の活動は会員や家族の皆様のご大きな支えになったことと思います。

難病の皆様のご最初の窓口は保健所ですが、町に住む人々のために働く役場として、保健婦や社会福祉係等が皆様のご相談に当たり、通院交通費の一部助成等の施策をおこなっていますが、皆様が明るい希望を持って、安心して暮らしていける町づくりを進めていきたいと考えています。

会員の皆様、ご家族の皆様が勇気を持って難病や障害と戦い、生きがいのある人生を送られますよう、そして北海道難病連厚岸・浜中支部のますますのご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ご あ い さ つ

町立厚岸病院院長

石 村 美 樹

北海道難病連厚岸・浜中支部が設立二十周年を迎えられるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げますとともに、二十年間に渡る会員の皆様のご苦勞に対し、心から讃辞と敬意を表します。

一重に二十年と申しますがこの厳しい社会環境の中、様々な問題に突きあたり、そして幾度か挫折しそうなになった事があることでしょう。

そんな時にも励まし合い、相談をして、ひとつひとつ乗り越え地道ながら着実に活動を続けて来られた会員の皆様のご努力に対し改めて感謝を申し上げます。

またこの二十年の歩みの中に当院も深い係わりを持たせて頂いていると聞き、大変嬉しく思っております。

貴支部が結成された翌年の昭和五十四年六月には盛会の中で開催されました野外レクリエーションへの参加、また同年には町立病院に於いて週一回難病外来を開設させて頂きましたし、昭和五十六年の国際障害者年難病と障害を考えるシンポジウムが開催された際には、当時副院長でありました小児科の五十嵐先生が出席をし、特別講演をさせて頂いています。

また昭和五十九年、六十三年には当院に於いて難病無料検診相談を開催していますが、この他にも数々の行事、事業等に参加させて頂いております。これからも機会があれば参加させて頂きたく考えております。

今後も難病連の発展のため、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに会員の皆様のご多幸と増々のご活躍をお祈り申し上げましてお祝いの言葉といたします。

二十周年を迎えて更なる結束を

浜中町立浜中診療所所長

道 下 俊 一

北海道難病連厚岸浜中支部を結成されて二十周年、心よりお祝い申し上げます。わずか十四名で発足されたとのことですが、少人数ながらしつかり結束を固め、北海道難病連に加入し、連携を深めることで、活動の範囲を拡大して来られた二十年の歩みに心から敬意を表します。

然し、昨今の国や道の施策をみると、決してみなさんの前途は明るい材料ばかりでないことは残念なことです。昨年九月の医療費の改定以来、私の診療所のお年寄りの受診はめっきり減って来ました。あるお年寄り「先生。ひとつでもふたつでも薬を減らして下さい。千二十円だけでよかったのが、四倍も五倍にもなつてつらいんです。」

何時もは、しつぷ薬をたくさんくれと云うおばあさんが、「今日はいりません。」と云うのを聞くと悲しくなります。

二週間たつてもう薬はなくなっている筈なのに「今日は診察だけにして、薬はいりません。」弱い老人をどうしてこうもいじめるのかと思うと、今度は腹が立ってきます。

そして昨年から話題になっていた、特定疾患医療費の自己負担導入が、遂に八月一日から実施されることになりました。全国では五月一日から強行実施され、北海道は見送っていましたが、国の強い姿勢はそのままにしておく筈がありません。遂に導入されます。残念なことです。精一ばい生きているみなさんの経済的負担を増大し、希望を失ってしまはないかと気になります。

日本の福祉はひとつひとつ後退していきます。新しい政権の誕生をテレビは報道していますが、果たして福祉を取り戻してくれるのでしょうか。弱い者いじめを止めてくれるのでしょうか。私たち医療にたずさわる者も声を大にして、国に訴えていきますが、みなさんも二十周年を祝うと同時に公費負担を復活させる運動を展開して下さい。

今こそ「なんれん」のみなさんの一層の結束が絶対必要な秋と思います。頑張ってください。

十五年前を思い出して

北海道道議会議員
勤医協中央病院名誉院長

大 橋 晃

厚岸・浜中支部二十周年おめでとうございます。

私と皆さんのおつき合いは、八十一年十二月の「国際障害者年、難病と障害を考えるシンポジウム」、八十三年十一月の「難病と障害を考えるつどい」以来ですが、当時まだ少なかった難病連の地域支部の先駆的なとりくみとして、私も一生懸命講師としての役割をつとめたことを昨日のように思い出します。

田宮滋子さん、小柳悦子さんたちの熱心なとりくみ、講師やパネラーとしてつとめた町立病院の五十嵐正紘先生、浜中診療所の道下俊一先生はじめ患者の堀井つるさんなど、ひとつの地域の中で医療・福祉に携わる様々な立場の人々が率直に議論し合った有意義な催しでした。

あれから十五年以上たちますが、政府は今年の五月から難病の医療費無料化制度を崩して一部負担を導入しました。

北海道では、難病連をはじめとする医療福祉団体の運動、そして私の道議会での追及によって五月一日の導入を全国で唯一ストップしてきましたが、残念ながら八月一日から一部負担が導入される結果となりました。

昨年九月の医療保険制度の改悪に続いて、来年、再来年とさらに患者負担増や制度改悪がおしつけられようとしています。

このような時に、これをはね返していく全国的な運動が必要とされるのは勿論ですが、地域の中で患者さん、医療・福祉関係者が核となって住民ぐるみの運動が必要です。

厚岸・浜中支部がその役割をますます発揮することが求められています。

わたしもいまでは「病気を治す仕事」よりも「政治の病気を治す」ことが主な仕事になっていますが、難病の専門医として皆さんととりくんでまた原点を忘れることなく一層頑張っていく決意です。

近 況 報 告

前自治医科大学教授
元町立厚岸病院長

五十嵐 正 紘

厚岸を去って早8年になる。厚岸の印象に残る思い出の一つは、朝な夕なに眺めた厚岸の太陽である。当直の早朝に呼び起こされると、浜中の方向から真っ赤に燃えた大きなお日様が厚岸湖の湖面と空をまっかに焦がして昇るのをしばしば私の家の書斎からみた。夕方には町立病院3階のナースステーションから、大きくなった真紅に燃える太陽が厚岸湾の海面とその上空の雲を真っ赤に焦がして沈んでいくのをすばらしいと思って眺めていた。こんな死を迎えたいとの思いがいつも一緒にあった。誕生や成長と、老いや死亡との共通性を考えさせられる風景でもあった。

この地球上に生命がたんじょうしてから36億年にわたり代を継いで連綿と生き続けて最後に私を構成することになった細胞がその役目を終えて、すでに150億年の歴史を持つ宇宙のダイナミックな営みの要素となって帰っていくときが死である。36億年続いた自己組織系が崩壊するときであるから激しい痛みと悩みを伴ってのこととなるのは受けざるをえない。今住む家の2階にある自分の書斎に行く階段を昇るときに、この階段を自分の足で昇れるのはあと何年かなと考える年になった。残された時間は少ない。この短い時間に、私に与えられた私によってなされることを待っていること、私に与えられた私を必要とする人に、私にできることをしたい。

いま私は自治医科大学を定年まで何年も残して退職し、日に20人位の寝たきりの人、障害や難病で遠くへの移動が困難な人の家庭を訪問して、診療や、外にでられるようにするお手伝い、話の聞き役をしています。この方々やその介護者から毎日多くのことを教えられ、癒すというより逆に癒しを与えられています。診療所でありながら、一軒の家に私のような家庭医、また精神科医、神経内科医、整形外科医、理学療法士、装具士、建築士、歯科医、歯科衛生士、看護婦、栄養士、薬剤師、保健婦、介護福祉士、ヘルパー、理容師と多くの職種が一緒にまたは別々に訪れる医療は今までは考えられなかったものです。24時間対応で患者からの緊急要請にも応じています。

医師の医療判断について考える学問（医療判断学）はすでにありますが、患者がどのようにして判断をくだしているのかについては殆ど解明されておらず、この解明がないとよい医師患者関係、対等な説明と協議、情報公開、インフォームドコンセントは生まれないと考え、このことに興味を持って仕事をしています。また個人の健康疾病史を一つの学問にしなければならないとの使命を厚岸在職中から感じています、これが保健医療福祉の評価のもっとも高度な形態になり得るとの思いからです。戦後50年分化した医療の方法論はすばらしい発展を遂げましたが、それと車の両輪をなすべき統合の医療のための使える方法論は未だありません、それがプライマリケア、家庭医療、総合医療といわれる診療科目の発展を阻んでいるとおもいから何とか使える方法論をものにしたいと考えています。

ご あ い さ つ

道東勤医協理事長

時 沢 享

難病連 厚岸・浜中支部設立二十年、まことにおめでとうございます。

二十年前は、「難病」という言葉は耳新しく、原因不明で治療法も確立していないため、不安が大きく、また誤解されることもあった時代でした。

支部結成により、青空レクレーション、難病と障害を考えるシンポジウムなど活発な活動が開始され、地域の人に理解を広げてゆきました。

小柳悦子支部長や田宮事務局長の熱意と人柄が周りの人を励ます大きな力となりました。「悦ちゃんはね……。」という支部長の明るい声が今も生きいきと甦ってきます。

また、会員の頑張りだけでなく、道下先生、麻生先生、五十嵐先生、行木先生など医療関係者によき理解者を得られたことも、運動を進める上で力強い見方であったと思われまます。

難病連の活動は、難病の究明、病気とのたたかいに大きな力となっただけでなく、健常者のかかわり、行政の対応などに深く問題を投げかけました。後日、釧路を中心に企画された「障害者列車ひまわり号」の取り組みにも大きな影響を与えました。

会員の皆さんが、病気を個人のものとしてだけでなく、社会的なものとして捉え、今日まで長年にわたり運動を発展してきたことに対し心より敬意を表します。

本年八月より、特定疾患の医療費一部負担が実施されました。闘病生活の多大な苦痛に加えて、経済的負担に苦悩せざるを得なくなったことは真に遺憾です。

病気で苦しむ人が安心して療養できる環境をつくるために、私たちもみなさんと手を携え、地域に輪を広げてゆきたいと思います。

貴支部のご発展を祈念いたします。

難病連厚岸・浜中支部のあゆみ

1978年(昭和53年)

10月12日 ベーチェット友の会を中心に厚岸・浜中難病友の会結成 8名

1979年(昭和54年)

6月24日 「今日一日たいようの下であそびませんか」と呼びかけて、釧路地区会同レクリエーションを開催。患者、家族、スタッフ、ボランティア合わせて500余人参加

10月22日 厚岸・浜中地区懇談会（生活改善センター）

1980年(昭和55年)

10月21日 難病連集會
道難病連事務局長 伊藤たてお氏
来厚

1. 地区連に頼らない友の会独自の活動
2. 毎月一回の役員会の開催

7月12日 1. 町立病院で人工透析を開設を全道統一要求として

2. 通院交通費の助成を全道統一要求
3. 患者会への助成
4. 町として患者のための定期相談会の開催を

7月19日 道役員研修会 1名参加
難病センター建設基金1,000万円突破を機に法人化へ

8月10日 地区役員会（釧路市役所）

10月4日 第一回友の会交流会 12名参加

11月1日 難病無料検診相談会（厚岸町社会福祉センター）53名受診

1981年(昭和56年)

3月6日 町立病院で人工透析実施 町立病院運営委員会で決定

3月7～8日 地区役員研修会（釧路船員保健寮）

4月11日 友の会定期総会 参加者16名

4月18日 第9回北海道難病連総会（札幌市）参加1名

12月5日 「国際障害者年 難病と福祉を考えるシンポジウム」（社会福祉センター）約100名

1982年(昭和57年)

4月10日 友の会定期総会（社会福祉センター）

4月19日 難病連第10回総会 1名出席

4月20日 交流会 1名参加

6月17日 厚岸浜中地区難病無料検診相談会（浜中町公民館）受診者71名

10月10日 医療相談会 勤医協中央病院 中井秀則先生（漁村センター）

1983年(昭和58年)

3月2日 難病連役員研修会（札幌市）2名参加

3月5日 地区役員研修会（阿寒町雄岳荘、営林署保養所）3名参加

4月16日 難病連第11回総会 難病センター完成 難病連事務局センターへ

8月6～7日 全道集會（旭川市）6名参加

8月23日 釧路難病特診（協立病院）4名受診

10月1日 難病連役員研修会（早来町鶴の湯温泉）

- 11月27日 難病と障害を考える集い
 - これからの医療と福祉 - (社会福祉センター)
- 12月23日 国会請願行動 (東京都) 1名参加
- 24日 全国集会・デモ行進・国会請願

1984年(昭和59年)

- 3月3日 地区役員研修会 (根室市)
- 4月21日 難病連第12回総会 2名参加
 22日 支部協議会
- 7月8日 厚岸・浜中地区難病検診相談会
 (町立厚岸病院) 受診者73名
- 7月27~30日 全道集会 (函館市、十和田丸船上) 参加者10名
- 10月6~7日 全道役員研修会 (古平町) 1名参加

1985年(昭和60年)

- 1月27日 新年交流会開催 (生活改善センター) 30名参加
- 4月17日 難病連総会 1名参加
- 9月1日 肝臓がん検診 (釧路市がん検診センター)
- 11月10日 肝炎学習会 協立病院
 田辺利雄先生 (生活改善センター)

1986年(昭和61年)

- 2月22日 道東ブロック役員研修会 (中標津保養所温泉) 1名参加
- 4月19日 難病連総会 1名出席
- 7月6日 道東支部協議会 (釧路市福祉会館) 2名参加
- 8月2日 第13会全道集会 (札幌市) 3名参加
- 10月26日 難病無料検診相談会 (浜中町老人福祉センター) 受診者59名

1987年(昭和62年)

- 1月25日 学習・交流会 (社会福祉センター) 25名
- 2月28日 道東支部役員研修 (鈴木旅館) 参加者33名
- 8月8~9日 第14回全道集会 (釧路市公民館) (町より患者輸送車運行)

1988年(昭和63年)

- 3月12日 道東支部研修会・会計監査・事業打ち合わせ (鶴居グリーンパーク)
- 4月16日 難病連総会 2名出席
- 6月19日 難病検診相談会 (町立厚岸病院) 受診者60名
- 9月3~4日 肝臓がん検診 (弟子屈町) 12名 (釧路市) 18名
- 9月10~11日 全道役員研修会 3名参加

1989年(平成元年)

- 2月5日 新役員 井上京子、小野夕美子
- 8月5~6日 全道集会 (音更町) 大人11名 こども3名参加
- 11月5日 難病検診相談会 (町立厚岸病院) 61名受診

1990年(平成2年)

- 1月27~28日 道東6支部役員研修会 (鶴居グリーンパーク) (標茶・弟子屈支部担当)
- 7月28~29日 全道集会 (札幌市) 2名参加
- 11月10~12日 全道役員研修 (札幌市)

1991年(平成3年)

- 1月26~27日 道東ブロック役員研修会 (養老牛温泉) (中標津支部担当) 5名参加

2月24日 小柳悦子支部長札幌へ転出のため送別会

支部長に田宮滋子、事務局長に山田澄子選出

7月27～29日 第18回全道集会（洞爺湖温泉）大人10名 こども1名参加

8月30日 釧根地域合同レクリエーション（釧路ヒルトップ）4名

9月6日 肝臓がん検診（釧路市福祉会館）30名

10月6日 シンポジウム「難病患者・障害者と高齢者の医療と福祉を語るつどい」（社会福祉センター）65名

10月16～17日 支部研修旅行（知床～羅臼へ）（町衛生係より車、保健婦同行）

1992年(平成4年)

1月19日 支部新年交流会（福祉センター）14名

23日 全道役員研修会（難病センター）1名

2月25～26日 道東ブロック支部役員研修会（厚岸・浜中支部担当）（ホテル金万）30名

5月12日 リウマチ友の会交流会 4名参加
16～17日 難病連総会（難病センター）2名

7月31日～8月1日 第19回全道集会（札幌市）2名参加

30日 釧根地域合同レクリエーション（釧路市柳町パークゴルフ、釧路ヒルトップホテル）4名参加

8月27日 健康まつり協賛コーヒーショップ出店（社会福祉センター）

9月23日 支部研修旅行（養老牛～網走）12名参加（町より車、保健婦同行）

11月8日 15周年記念事業最終打ち合わせ 7名参加

11月18日 支部設立15周年記念講演 47名参加

祝賀会（社会福祉センター）（ボランティア、社会福祉協議会協力）45名出席

1993年(平成5年)

1月15日 釧路沖地震発生 PM8:06 M7.8 震度6

23～24日 全道役員研修会（難病センター）1名参加

30～31日 道東地域支部役員研修会（釧路支部担当）（エスカル釧路）7名参加

5月15日 難病連総会（教育文化会館）1名参加

7月31日 第20回全道集会・難病連結成20周年記念・難病センター開設10周年記念（教育文化会館、グリーンホテル札幌）8名参加

9月12日 白糠・音別支部結成大会（白糠やまびこ会館）7名参加

16日 すこやか福祉運動会（社会福祉センター）5名

19日 釧根支部合同レクリエーション（阿寒支部担当）（阿寒丹頂の里パークゴルフ場、赤いベレー）5名参加

31日 難病無料検診・相談会（町立浜中診療所）相談者：厚岸13名、浜中18名、釧路1名、標茶1名 計33名

1994年(平成6年)

1月28日 支部新年交流会（生活改善センター）

29日 道東地域支部役員研修会（標茶・弟子屈支部担当）（標茶町かや沼）6名

4月28日 障害を持つ子と親の会“つばさの会”発足

会長 真木則子・事務局長 紺野由記子
会員8名

5月14～15日 難病連22回総会 1名参加

7月30日～8月1日 第21回全道集会(旭
川市)(町より保健婦1名同行)8名
参加

オプショナルツアー(大雪山白金観
光ホテル)7名参加

8月20日 肝臓がん検診(釧路福祉会館)
14名(町より3,000円助成、送迎車)

8月28日 白糠・音別支部交流会(阿寒町
“赤いベレー”)2名参加

9月17日 合同レクリエーション(厚岸・
浜中支部担当)(厚岸少年自然の家)
47名

11月6日 “つばさの会”交流会(つるい
グリーンパーク)26名参加

12月4日 医療福祉制度講演会(社会福祉
センター)(バジャー病友の会釧路
支部主催)30名参加

10日 第1回クリスマス家族交流会
(社会福祉センター)36名

1995年(平成7年)

1月21日 全道支部役員研修会 1名参加

2月4～5日 道東・十勝地区役員研修会
(阿寒支部担当)(サークルハウス赤
いベレー)2名出席

17日 ストマ部会、あやめ会、相談会、
交流会(社会福祉センター)9名参加

4月15日 釧路地区支部打合せ(社会福祉
センター)10名参加

5月13日 難病連総会 2名参加

20日 ストマ装具の説明会(社会福祉
センター)(フジタ調剤薬局協力)
10名参加

7月6～7日 身障者分会合同視察研修旅
行 忠類村(身障分会主催)2名参加

29～30日 第22回全道集会(札幌市)
2名参加

8月27日 釧路地区合同レクリエーション
(中標津支部担当)7名参加

9月15日 “つばさの会”交流会(阿寒湖
畔)15名参加

30日 さわやか福祉運動会、コーヒー
ショップ出店

10月12～13日 身障分会合同研修旅行(糠
平・音更)(難病連主催)(町より保
健婦同行)21名参加

11月9日 日本患者・家族団体協議会(J
P C)全国大会(グリーンホテル札
幌)1名参加

12月11日 クリスマス家族交流会(筑紫恋
公民館)41名参加(ボランティア、
町保健婦、身障分会会員)

1996年(平成8年)

1月13日 新年交流会(社会福祉センター)
(身障分会主催)10名出席

2月10～11日 釧路地区支部役員研修会(十
勝支部担当)(十勝川温泉)3名出席

5月17～18日 難病連総会 1名出席

7月27日 支部役員協議会(山花リフレ)
2名出席

8月3～4日 第23回全道集会(北見支部
担当)北見市(町より保健婦同行)7名
17日 肝臓がん検診(釧路福祉会館)
25名受診(町より3,000円助成、送
迎車)

9月28日 すこやか健康福祉運動会(社会
福祉センター)ふれあいの店出店 5
名参加

9月8日 釧路地区合同レクリエーション
(根室支部担当)(根室市)5名参加

11月23日 医療講演会・相談会(浜中町総
合文化センター)(浜中町健康まつり

協賛) 120名参加

- 12月7日 身障分会合同研修旅行(川湯温泉) 18名参加
 12月15日 クリスマス家族交流会(社会福祉センター) 35名参加(ボランティア、身障分会会員)

1997年(平成9年)

- 1月12日 新年交流会(社会福祉センター) 10名参加
 25~26日 道東地区支部役員研修(中標津支部担当)(中標津総合文化会館) 5名出席
 5月17~18日 難病連總會(ホテルユニオン) 2名参加
 7月26日 第24回全道集会(札幌市) 3名参加
 8月30日 肝臓がん検診(釧路市) 21名受診
 9月7日 釧根地域合同レクリエーション(白糠・音別支部担当)(音別町パークゴルフ場) 6名参加
 27日 ふれあいの店出店(社会福祉センター) 6名参加
 10月5日 赤い羽根街頭募金(子野日公園) 3名参加
 25~26日 身障分会合同研修旅行(幕別温泉)(難病連主催) 19名参加
 11月15日 医療講演会(社会福祉センター) 50名参加
 30日 全道支部役員協議会(札幌市) 1名参加
 12月12日 ストマ部会交流会(社会福祉センター) 10名参加(町保健婦、釧路支部会員)
 13日 クリスマス家族交流会(社会福祉センター) 45名(身障分会会員、支部会員)

1998年(平成10年)

- 1月11日 新年交流親睦会(社会福祉センター) 5名参加
 24~25日 道東地区支部役員研修会(厚岸・浜中支部担当)(ホテル金万) 45名参加
 5月16~17日 難病連總會(ホテルユニオン) 2名参加
 全道支部協議会(難病センター) 2名参加
 6月21日 自立事業センター「さわやか釧路」設立總會(身障者センター) 3名参加
 27日 森のおんがく会(札幌支部主催)(キロロリゾート) 2名参加
 7月25日 フリーマーケット出店(厚岸情報館) 5名参加
 8月1~3日 第25回全道集会(登別市)(登別第一滝本館)(町より保健婦同行) 8名参加
 22日 肝臓がん検診(福社会館) 21名受診
 9月5日 多発性硬化症医療講演会(福社会館) 6名参加
 13日 釧根地区支部合同レクリエーション(釧路支部担当)(パークゴルフ・ノロッコ号乗車) 6名参加
 9月26日 ふれあいの店出店(社会福祉センター) 10名参加
 10月25日 支部設立20周年記念の集い(ホテル金万)